

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：13701

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580055

研究課題名(和文) 戦時下文学史の再編成に向けて - 階層性とジェンダーの観点から

研究課題名(英文) Essay on re-organization of the Japanese literary history under World War II.-Intimacy to the liberalism under the national socialist policy in the late 1930s-

研究代表者

根岸 泰子 (NEGISHI, YASUKO)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：20180698

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：文学テキスト内に国民心性を探る試みとして、新たに「階層」と「国民化」の観点を導入し、これまでの文学史上で盲点となっていた大衆娯楽雑誌の通俗小説と純文学との相互関係を解析して、トータルな戦時下文学史の再編成を試みた。分析では、非常時における文学の社会へのコミットメントを重視し、時事性の強い竹田敏彦の通俗小説テキストから近衛新体制期の国家社会主義的イデオロギーとの親和性とそこから逸脱するリベラリズム的志向性を析出、さらに「文学の社会性」という文壇的テーゼおよび同時期の大衆小説の改革的な動向に関連づけるともに主要読者層である有職女性層の反応を解析して、国民心性の多層的理解につなげた。

研究成果の概要(英文)：This study is aimed at re-organization of the Japanese literary history under World War II. Popular novels in the entertainment magazines for the lower classes have been ignored by the literary history, although Takeda Toshihiko's works shows clearly sense of intimacy to the liberalism under the national socialist policy in Konoe system in the late 1930s. That tendency could be recognized as the successor of the social orientation within the highbrow literature, that had been lost by the censorship.

研究分野：人文学

キーワード：近現代日本文学 昭和戦中期 通俗小説 ジェンダー 文学の社会性

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初における昭和戦中期文学研究全般の状況は、戦時期・占領期の検閲システム研究を筆頭とする隣接領域の研究成果を着実に取り込みながら、戦時体制/戦後体制を二元論的な対立図式としてとらえる従来の傾向を脱した、実証的な文化・メディア・テキスト研究への移行期と位置づけられるだろう。一方で通俗小説というジャンルについては、文学研究のスタンスはまだこれを積極的に文学史に位置づける段階には至っておらず、志村三代子『映画人・菊池寛』(2013)のようにメディア論あるいは作家論としてのアプローチが大半であった。

本科学研究費助成金受給研究者である筆者は、それまでの戦時下心性研究(挑戦的萌芽研究 平 19-21、平 22-24)で、国策協力的な女性テキスト中の表象の両義性から浮かび上がる厭戦と戦争協力の共存(「宇野千代『妻の手紙』論 戦時期女性文学テキストの“戦争協力”をめぐって」2009 ほか)といった複雑な国民心性のありようを確認し、また検閲下にあってもリベラリズム的な志向性を示す女性テキストの紹介とその戦略性(「アジア・太平洋戦争下の大衆小説」2011 ほか)等の知見をベースに研究を進めてきた。その過程で筆者は、国民心性のより精緻な考察に向けて、「階級」と「国民化」という観点が必須であることを痛感していた。とくに大衆と知識階級の関係性に注目する上で、これまでの文学史上で盲点となっていた大衆娯楽雑誌に焦点化した研究は急務であった。

このジャンルについては『菊池寛現代通俗小説事典』(八木書店、2016)等、現在では次第に注目が高まっているが、本研究では、竹田敏彦を中心とする通俗小説専門作家のテキストにみられる非常時における文学の社会へのコミットメント 文学の社会性の問題を精査するという新たなアプローチをとっている。これにより純文学における文学の社会性というかつての理念との拮抗の様相を精査することで、トータルな戦時下文学史の再編成が可能ではないかというのが研究当初からの予測だった。

## 2. 研究の目的

本研究は、筆者のこれまでの昭和戦中期「国民心性」の研究に加えて、従来、昭和文学史の範疇から取り残されてきたところの労働者大衆を対象とする大衆娯楽雑誌に掲載された「通俗小説」を精査することで、これを昭和文学にあらたに組み入れ、昭和戦中期文学史を再編成することを主たる目的としている。

今回の通俗小説テキスト分析にあたっては、文学テキストにおける社会性(社会的志向性)をもっとも重視した。筆者のこれまでの心性研究では主として女性テキストの堤千代を中心に分析してきたが、そこにはリベラルな志向性はつよいものの、社会指向は希

薄だった。それに対して特に昭和12年~15年あたりまでの近衛体制・近衛新体制期における通俗小説作家竹田敏彦のテキストでは、その他の男性作家も含めた通俗小説-政治指向性は薄弱-と比較して社会性が顕著であり、またとくに新体制期における国家社会主義的政策への親近感が目立っている。これと純文学、あるいは文壇内のテキストにおけるプロレタリア文学運動、「社会化した文学」(小林秀雄)、久保栄の社会主義リアリズム論、行動主義文学、武田麟太郎等の人民文庫、そして転向作家を多く含む国策小説などにみられる「文学の社会性」指向との関係性を実証的に探ることは、当時の国民心性を中産階級(知識人)と労働者・大衆の階層の両面から統合的に把握し、かつ文学史もそのような観点から再編成するという本研究の主要な目的のひとつとなっている。

テキストを読み解く上では、大正末~昭和十年代までの日本社会の階層性の問題をより具体的にとらえることも必要である。これについては名古屋という都市を対象に、この時期の文学と社会の関係性をトータルに捉える作業を行った。とくに都市におけるモダニズムの進展を扱った年表の作成により、中産階層および知識人の生活、ネットワーク、海外芸術との交流などを具体的に捉えることができた。またジェンダーの観点からは、前述の社会的志向性という観点を個々に取り込んで、従来生産文学の書き手とみなされていた小山いと子を中心に来有閑ブルジョワ小説とされた女性テキスト群の読み直しを行った。

## 3. 研究の方法

### (1) 文学テキスト読解のための予備作業

コンテキスト(同時代状況)の精査

同時代の社会における思想動向、国内外の経済的状況、国内外の政治状況等についてのチェックする作業である。

大正末から昭和戦中期における都市部の階層社会の状況

前述のモダン都市名古屋の社会・文化動向の調査の調査等が該当する。

### (2) 文学テキスト解析

テキストのイデオロギー解析

テキストを読み込む際のコードとして、同時代のイデオロギーの理解は欠かせない。本研究では、資本・国家・労働者が国民精神総動員体制の中で複雑に錯綜する近衛新体制期のテキストを読み解くために、この時期の思想動向に関する資料講読を行った。

テキストにおける物語行為的側面

通俗テキストの文法としての、人物・話型の類型性は、竹田敏彦が社会を書く際の戦略である。本研究ではその点に着目し、竹田のテキストが描く作品中の風俗描写のひとつ

ひとつが、いかに当時の社会構造や歴史性を効果的に表象し、かつその中での各作中人物の行動の軌跡が、しかに彼の理念を具現化し読者に対して絵解きしているかを、ストーリーに即して検証している。

#### 読者層の分析

本研究では、婦人雑誌特有の読者投稿欄に着目して、作品のモチーフ（女子工員の自己肯定）と労働者階層読者との共振の様相を確認し、時代状況の中での通俗小説への読者の支持の様相を具体的に検証した。

#### 文学史への還元

(2)によって析出された通俗小説の特性を、従来の文学史における「文学の社会性」と共通のファクターと仮定し、その相関性を同時期のスパンの中に位置付けた。

#### 4. 研究成果

各年度の「研究実施計画」に基づき、以下に示す成果を上げた。インパクト、展望等については、適宜それぞれの末尾に記してある。

##### (1)時代背景の調査

###### 中産階級（知識人階級）の階層的特性

都市文化論・都市モダニズム・都市計画史などの新知見を取り込んでの特定の都市の検証によって知識人の階層的な特性の形成過程を確認するために、1920～30年代における名古屋をモデルとした都市論的な解析を行った。具体的には、名古屋の都市形成過程、新興工業都市・車都としての都市特性や都市行政に見られる特異性、モダニズム期名古屋の文化人層の調査とその特性把握を通して、都市生活者の実態とその感性、時代との相関性を総合的に把握している。ここでは1920～30年代という都市モダニズム文化の開花期に焦点を当てて、都市部の中流階級の形成とその生活実態や感性のありよう、彼らの文化的営為（文学・美術）を実体的に捉える作業を行うことができた。これはモダニズム期から戦時体制への推移における国民心性の解析という本研究全体のテーマの時代的背景を、とくにその中心部分である中産階級に焦点化しながら実証的に明らかにする上で有益であったと考える。（図書）

アッパーミドル階級の既婚女性作家および関連する文学者については、それぞれ小林秀雄、中里恒子、小山いと子を中心に資料収集を行った。とくに中里恒子については成果発表には至らなかったものの、中産階級的リベラリズムおよびその文学のモダニズム手法におけるジェンダー戦略に着目し、戦時下文学史の再編成を試みる本研究の中核的な作家と位置づけて、同時代のヨーロッパ・アメリカ文学の翻訳文献、当時の富裕層を读者層とする雑誌『ホームライフ』（復刻版）など当時の資料も参照して調査を進めた。なお小林秀雄の戦中期については、[図書]に

参考文献を示している。

###### 昭和戦中期（近衛新体制期を中心に）の社会・思想動向調査

竹田テキストにみられる資本主義批判が、同時期の国家のファシズム的志向性と親和的であることはみやすいが、竹田テキストの他の一面である、リベラリズムや合理主義への志向性はそこからは説明できない。本調査では、近衛新体制期の企画院にみられる国家社会主義的な政策のありようを、伊藤隆『近衛新体制 - 大政翼賛会への道』（中公新書）、同時代資料として『資料 日本現代史7 作業報国運動』（大月書店）ほかによって確認する作業を行った。

言論統制下の竹田敏彦のスタンスを考える上で、情報官鈴木庫三と竹田敏彦の関わりは欠くことができない。従来の悪役鈴木像を刷新した佐藤卓己『言論統制 - 情報官・鈴木庫三と教育の国防国家』（中公新書）での知見により、先述の竹田のリベラリズムや合理的指向には鈴木のと共通点があることを知り、竹田の「生産化粧」「婦人倶楽部」連載初回に鈴木が「竹田君に期待する」という推薦の辞を寄せていること、また美術雑誌『みずゑ』の座談会「国防国家と美術」（1941.1）での七七禁令下の模範的なファッションのありようを説く鈴木と言説が竹田の「脂粉追放」の作中人物の言に酷似している点等、鈴木と竹田の共通する志向性を実証的に確認することができた（雑誌論文）。総じて竹田のもつ社会的な視野の広さ（純文学との差異）と戦時経済政策の親和性と異質性など、当初の予測以上の知見を得ることができたといえる。

##### (2)文学テキスト解析および文学史的知見

###### 竹田テキストの解析

テキスト解析に先立って、通俗小説の中で極めて例外的に、社会的な志向性を作品内に示した竹田の作家調査を行い、さらに新聞記者を出自とする竹田の諸作品に見られるモチーフ特性としてのリベラリズム的志向性を抽出した。とくに注目されるのは、竹田作品における「正義感」が昭和10年以降の日本国内での財閥資本を中心とする市場主義経済の暴走、固定化されてしまった階層化社会に対する強い批判意識である点で、これはきわめて今日的なモチーフとして興味深い（雑誌論文）。

各論的には、竹田敏彦の戦争未亡人問題を扱った国策文学的なテキスト「若い未亡人」（1939-40）を対象に、歴史学の知見を援用して当時の軍人援護政策の孕む女性の人権への保護/抑圧の両義性を指摘、それを巧みにストーリー展開に織り込んだ竹田テキストの文学的戦略性を読解した（雑誌論文）。これは通俗小説ジャンルの社会性と文学史的な位置づけへの新たなデータ蓄積と位置付けられると考える。

竹田テキストに見られるリベラリズムについては、総動員体制期の経済的な実態をより深く理解する調査に比重を移し、竹田テキストに登場する富裕層のイメージがいかに同時期の経済政策を正確に反映しているか（文学の社会性）をより実証的に解明する作業にふり向けた。

その成果として、竹田の主要モチーフである資本主義批判を、「金銭万能主義」批判とそこからの脱却というテーマによって具現化した「脂粉追放」（1940-41）を分析、竹田テキストが理念的には近衛新体制の国家社会主義的な方向性に共感しつつも、テキスト内で作中人物によって実感的に語られるのは、「お金は自分で働いて獲得しなければならない」という心学的道徳であること、また一方で労働に対する対価は、当事者間の権力関係にかかわらず、働きに応じて正当に支払われるべきであるとする合理主義的な志向性をもつといった特徴を析出し、時局的なイデオロギーから逸脱してゆく竹田テキストの過剰性を指摘した（雑誌論文）。

時局的な生産文学とみなされてきた同時期の「生産化粧」（1940-41）については、時局と通俗文学の関係性について、それがもっとも先鋭なかたちで出現する近衛新体制期の産業報国運動に絞り込んで考察を行った。とくに近衛新体制期の世界情勢（ブロック経済および自由主義的資本主義体制下の階級格差）に対する竹田テキストが、一君万民イデオロギーの近衛新体制を全肯定するのではなくむしろ旧労働組合的な「労働者の生活権の擁護」を唱えた点を指摘した（雑誌論文）。

#### 大衆小説サイドの評価と文学史的知見

同時代評価を調査することにより、大衆小説の同人誌『文学建設』（1939）に拠りながら大衆文学の停滞を打ち破ろうとしていた海音寺潮五郎らの批評に、竹田野通俗小説テキストに「文学における社会性」のモデルを見ようとする志向性を見出した。それらの評の中には竹田作品をプロレタリア文学になぞられるものもあり、注目される。（雑誌論文）

また昭和12年頃から始まる「生産文学」運動における文壇の時局へのアプローチと竹田テキストとの共通性と異質性を考察し、文学の社会性という当時の竹田の主張の文学史的意義を析出した。（雑誌論文）

#### 大衆小説における抵抗状況の概観

「日の出」における純文学と大衆文学の融合の様相を分析し、編集者による昭和戦中期における時局への抵抗を精査した。具体的には『日の出』掲載の通俗小説を、検閲方針に対する表面的順応と抵抗戦略として説明した和田芳恵の回想に沿って、時代小説／現代小説、純文学・転向作家／大衆小説作家という項目ごとに代表的なテキストを抽出してその読み直しと解析作業を行い、従来国策追

随一辺倒とみなされがちだった大衆誌メディアにおけるリベラリズム的傾向とそれを歓迎した勤労女性読者の存在を捕捉することができた。

また堤千代と並ぶ人気通俗作家だった竹田敏彦の戦争未亡人問題を扱った時事的なテキストを分析し、従来単純な国策宣伝のテキストとみられていた通俗小説ジャンルにおける多面性を指摘した点も、前述のとおり文学史的新知見として重要と考える（雑誌論文）。

#### 文学史へのジェンダー的観点の導入

女性テキストについては、ジェンダーと市民性というテーマに即して、生産文学の旗手とされた小山いと子の同時期の「オイル・シエール」以下のテキスト群を調査した。先述したように従来は生産文学あるいは有閑階層の女性文学として扱われてきた小山テキストに見られる国際的、経済的パースペクティブ（「オイルシエール」、ほか）に着目し、そこに竹田と共通する社会性を見出したためである。これは成果発表には至らなかったものの中流上層階層の一員故に知り得た重化学工業産業内部への批判性・社会性・を析出するとともに、同時代評が小山テキストを「女性性」というカテゴリーに隔離することで、同時代の文学の社会性という志向性と重ね合わせることができなかった点を確認した。

女性読者という観点からは、『婦人倶楽部』の読者投稿欄を分析することで、女子労働者という読者層の具体的な反応を確認し、ジェンダーと階層というテーマをより絞り込んで分析した。（雑誌論文）

#### 知識人、文学者の動向

大衆娯楽雑誌「日の出」に執筆していた武田麟太郎、獅子文六、丹羽文雄、舟橋聖一ら同時代の文壇人の発言を新たに新聞媒体から収集するとともに、前述の鈴木庫三と当時の文学界の関わりについての新資料を収集することで、検閲体制の実態をたどるための作業を行った。とくに総動員体制下の統制経済についての先学の昭和史研究の成果を参照して、竹田テキストにおける資本主義へのスタンスを読み取るとともに、雑誌『ホームライフ』などにみられる富裕層の生活状況の歴史的構造的な読み取りながら、戦前期の若い知識人女性作家中里恒子の文学テキストの背景を実体的に解析する準備作業を進めた。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

根岸 泰子、通俗小説に映る近衛新体制 - 産業報国運動と竹田敏彦「生産化粧」（昭15

～16) 岐阜大学国語国文学、岐阜大学教育学部国語教育講座、査読無、第41号、2016、1-14

根岸 泰子、戦中期通俗小説における「時局」性の様相 - 竹田敏彦の昭和十年代中期の作品を中心に -、教育学部研究紀要(人文科学) 岐阜大学、査読有、第60巻第1号、2015、1-10

根岸 泰子、昭和戦中期の通俗小説における「戦争協力」の実態 - 竹田敏彦「若い未亡人」(昭14・10～15・12)と戦争未亡人問題 -、岐阜大学国語国文学、岐阜大学教育学部国語教育講座、査読無、第40号、2014、1-15

〔学会発表〕(なし)

〔図書〕(計2件)

王志松・島村輝編著、外語教学与研究出版社(北京)、日本近現代文学研究(日本学研究叢書) 2014、323-328(作家研究 小林秀雄 根岸泰子)

和田博史監修、根岸泰子編、ゆまに書房、名古屋の都市空間(コレクションモダン都市文化 89)、2013、711-771(モダン都市名古屋の肖像、解題、関連年表、主要参考文献)

〔産業財産権〕(なし)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

根岸 泰子 (NEGISHI Yasuko)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：20180698